

**【新しい実学の奨励】**

1	日本の学校系統図.....	1
2	新しい実学に関する学科の設置状況.....	2
3	専修学校の設置状況.....	4
4	新しい実学の奨励に関するこれまでの取組.....	8
5	地域学に関する取組.....	10
6	「実学」の基盤となる小中学校における地域学習について....	12

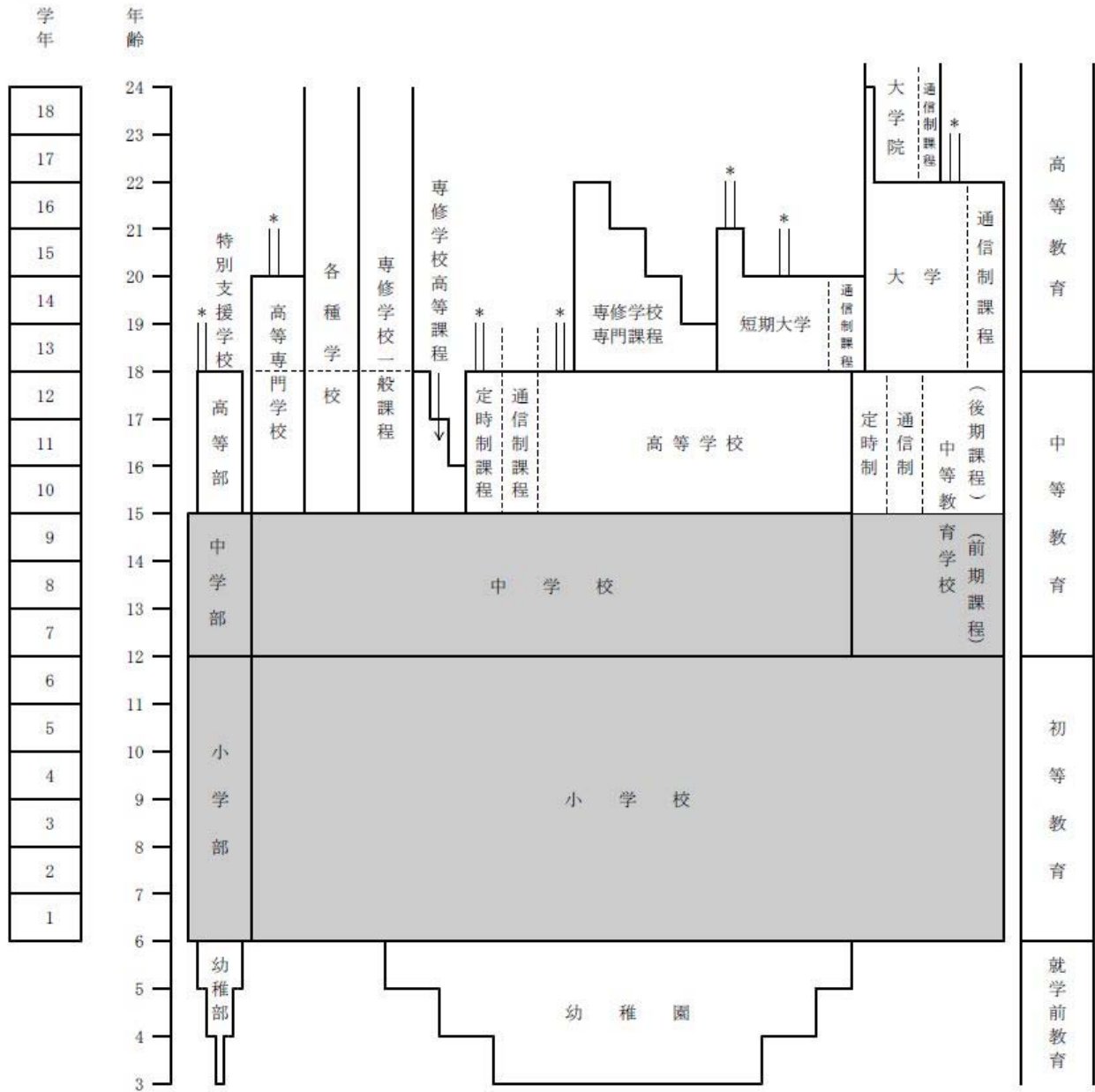
**【大学、大学院の充実】**

7	県内の大学、大学院等の状況.....	13
8	県内の高等学校卒業後の状況.....	20
9	小・中・高校と大学・大学院の連携の推進に関する これまでの取組.....	21
10	県内公立高校における高大連携の実施状況.....	22



# 日本の学校系統図

(出典：文部科学省ホームページ)



(注) (1) ■部分は義務教育を示す。  
 (2) \*印は専攻科を示す。  
 (3) 高等学校、中等教育学校後期課程、大学、短期大学、特別支援学校高等部には修業年限1年以上の別科を置くことができる。

新しい実学に関する学科の設置状況

1 新しい実学に関する学科を有する高等学校

区分	学校名	農業	工業	商業	水産	家庭	福祉	芸術	体育	総合	専攻科
県立	下田(南伊豆分校)	●									
	伊東商業			●							
	土肥			●							
	伊豆総合		●							●	
	田方農業	●									
	御殿場		●	●		●					
	裾野									●	
	沼津西							●			
	沼津工業		●								
	沼津商業			●							
	吉原工業		●								
	富士宮東						●				
	富士宮北			●							
	富岳館									●	
	清水南								●		
	科学技術		●								
	静岡農業	●									
	静岡商業			●							
	駿河総合									●	
	焼津水産				●						●
	藤枝北									●	
	島田工業		●								
	島田商業			●							
	清流館						●				
	相良			●							
	掛川工業		●								
	小笠									●	
	遠江総合									●	
	袋井商業			●							
	天竜	●								●	
	磐田北						●				
	磐田農業	●									
	磐田西			●							
	浜松江之島							●			
浜松東			●								
浜松大平台									●		
浜松工業		●									
浜松城北工業		●									
浜松商業			●								
浜松湖北	●	●	●								
市立	富士市立			●					●		
	静岡市立清水桜が丘			●							
私立	知徳			●		●	●				
	飛龍		●								
	清水国際			●							
	城南静岡			●							
	静岡女子			●		●	●				
	焼津									●	
	静岡		●								
	藤枝順心					●		●			
	常葉学園菊川							●			
	浜松学芸							●			
	浜松修学舎			●			●				
浜松啓陽			●								
合計		6	12	21	1	4	6	6	1	10	1

2 新しい実学に関する学科を有する高等専門学校

区分	学校名	農業	工業	商業	水産	家庭	福祉	芸術	体育	総合	専攻科
国立	沼津工業		●								●
合計		0	1	0	0	0	0	0	0	0	1

3 高等学校及び高等専門学校の募集定員の割合（全日制：平成27年度募集計画）（単位：人）

学科	普通科等	新しい実学に関する学科										合計
		農業	工業	商業	水産	家庭	福祉	芸術	体育	総合	計	
定員	24,247	800	2,750	2,930	200	160	275	274	40	2,015	9,444	33,691

72.0%

28.0%

※出典：静岡県教育委員会、静岡県私学協会、沼津工業高等専門学校の発表を加工

※普通科等には、英語、理数、国際、その他を含む

4 高等学校卒業後の進路の状況（全日制：平成26年3月卒業者）（上段 単位：人）

学科	計	大学等 進学者	専修学校 専門課程 進学者	専修学校 一般課程 等入学者	公共職業 能力開発 施設等 入学者	就職者	一時的な 仕事に就 いた者	左記 以外の者
普通科等	23,019	15,170 65.9%	3,505 15.2%	895 3.9%	73 0.3%	2,358 10.2%	80 0.3%	938 4.1%
新しい実学に関する学科	農業	812 16.9%	137 35.6%	289 —	— 0.1%	375 46.2%	1 0.1%	9 1.1%
	工業	2,360 18.1%	428 11.7%	275 3.0%	71 1.2%	1,532 64.9%	—	26 1.1%
	商業	2,853 22.2%	634 23.2%	662 1.1%	31 0.6%	1,409 49.4%	27 0.9%	74 2.6%
	水産	147 19.0%	28 13.6%	20 —	— —	98 66.7%	—	1 0.7%
	家庭	161 18.6%	30 47.2%	76 —	— —	45 28.0%	9 5.6%	1 0.6%
	福祉	220 18.6%	41 31.8%	70 —	— —	97 44.1%	7 3.2%	5 2.3%
	総合	1,438 19.8%	285 31.6%	454 0.1%	1 0.9%	638 44.4%	3 0.2%	44 3.1%
	計	7,991 19.8%	1,583 23.1%	1,846 1.3%	103 0.7%	58 52.5%	4,194 0.6%	47 2.0%
合計	31,010	16,753 54.0%	5,351 17.3%	998 3.2%	131 0.4%	6,552 21.1%	127 0.4%	1,098 3.5%

※出典：平成26年度静岡県学校基本調査結果（調査日：平成26年5月1日）を加工

参考資料 3

専修学校の設置状況

平成27年8月31日現在

区分	※ 専門 課程	学校名	農業	自動車	建築・ イン テリア	コン ピュ ータ 等	ビジ ネス 実務 等	観光 ・ 外国 等	調理 ・ 製菓	理容 ・ 美容	ファッ ション 等	音楽 ・ 芸術 等	医療	その他
県立	●	東部看護専門学校											●	
	●	農林大学校	●											
公立	●	沼津市立看護専門学校											●	
	●	富士市立看護専門学校											●	
	●	静岡市立静岡看護専門学校											●	
	●	静岡市立清水看護専門学校											●	
	●	静岡県中部看護専門学校											●	
	●	島田市立看護専門学校											●	
	●	東海アクシス看護専門学校											●	
	●	浜松市立看護専門学校											●	
学校法人立	●	下田看護専門学校											●	
	●	国際ペットビジネス専門学校熱海校												●
	●	国際医療管理専門学校熱海校					●							
	●	国際観光専門学校熱海校						●						
	●	沼津情報・ビジネス専門学校				●						●		●
	●	静岡県東部総合美容専門学校								●				
	●	専門学校白寿医療学院											●	
	●	大原介護福祉専門学校沼津校												●
	●	大原公務員医療観光専門学校沼津校					●	●						
	●	中央歯科衛生士調理製菓専門学校								●			●	
	●	東海医療学園専門学校											●	
	●	東部福祉情報専門学校(休校)												●
	●	日本ギター専門学校(休校)										●		
	●	日本建築専門学校			●									
	●	日本書道芸術専門学校										●		
	●	富士コンピュータ専門学校				●			●					
	●	富士メカニック専門学校		●										
	●	富士リハビリテーション専門学校											●	
	●	富士宮高等専修学校				●	●							
	●	富士調理技術専門学校								●				
	●	プロスペラ学院ビジネス専門学校							●					
	●	国際ことば学院外国語専門学校							●					●
	●	駿河学院実務専門学校		●		●	●						●	
	●	常葉学園静岡リハビリテーション専門学校											●	
	●	清水学院実務高等専修学校				●	●							
	●	静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校							●					
	●	静岡デザイン専門学校			●				●		●	●		●
	●	静岡医療学園専門学校											●	
	●	静岡県美容専門学校								●				
	●	静岡産業技術専門学校			●	●	●					●	●	
	●	静岡福祉医療専門学校					●						●	●
	●	静進情報高等専修学校				●	●							
	●	専修学校静岡予備校早慶セミナー												●
	●	専門学校ノアデザインカレッジ												●
	●	専門学校静岡医療秘書学院						●						
	●	専門学校静岡工科自動車大学校		●										
	●	専門学校静岡電子情報カレッジ			●	●	●	●				●	●	
	●	専門学校中央医療健康大学校											●	
	●	川口調理師専門学校								●				
	●	大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校静岡校							●					

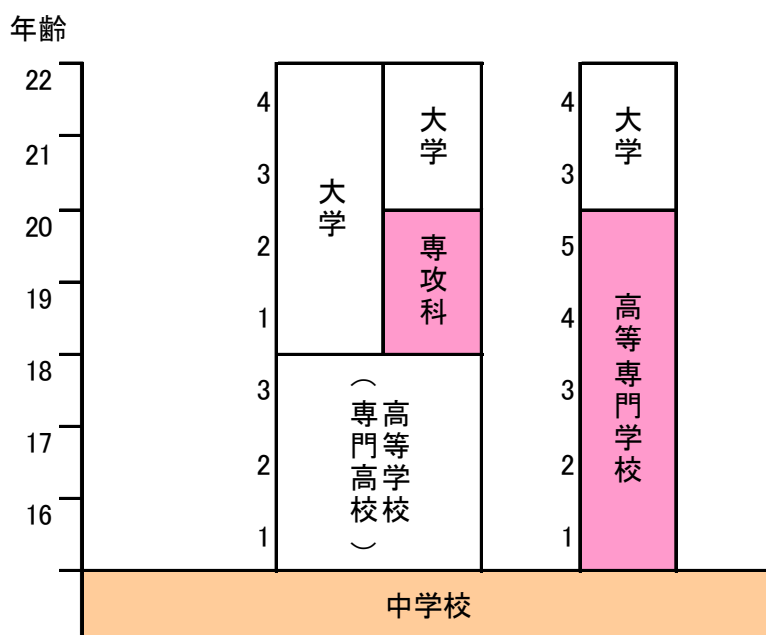
区分	※ 専門 課程	学校名	農業	自動車	建築 ・ イン テリア	コン ピュ ータ 等	ビジ ネス 実務 等	観光 ・ 外国 語等	調理 ・ 製菓	理容 ・ 美容	ファッ ション 等	音楽 ・ 芸術 等	医療	その他
学校法人立	●	大原簿記情報医療専門学校静岡校				●	●							
	●	大原法律公務員専門学校静岡校					●							
	●	中央調理製菓専門学校静岡校							●					
		島田実業高等専修学校					●							
		藤枝学院実務高等専修学校				●	●							
		専修学校河合塾浜松校												●
	●	オイスカ開発教育専門学校	●											
	●	デザインテクノロジー専門学校			●					●	●	●		
	●	国際医療管理専門学校浜松校					●							
	●	国際観光専門学校浜松校						●						
	●	静岡アルス美容専門学校								●				
	●	静岡県西部理容美容専門学校								●				
	●	静岡歯科衛生士専門学校											●	
	●	静岡新美容専門学校								●	●			
	●	専門学校ルネサンス・デザイン アカデミー			●			●		●	●	●		
	●	専門学校ルネサンス・ペット・アカデミー												●
	●	専門学校東海工科自動車大学校		●										
	●	専門学校浜松デザインカレッジ								●	●	●		
	●	専門学校浜松医療学院											●	●
	●	大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校浜松校						●						
	●	大原簿記情報医療専門学校浜松校						●						
	●	大原法律公務員専門学校浜松校						●						
	●	中遠調理師専門学校							●					
	●	東海こども専門学校												●
	●	東海調理製菓専門学校							●					
	●	東海福祉専門学校												●
	●	東海文化専門学校									●			●
	●	浜松医療福祉専門学校											●	●
●	浜松情報専門学校					●	●						●	
●	浜松日建工科専門学校			●										
その他の法人立	●	JA静岡厚生連するが看護専門学校											●	
	●	御殿場看護学校											●	
	●	静岡医療センター附属静岡看護学校											●	
	●	静岡済生会看護専門学校											●	
	●	静岡県厚生連看護専門学校											●	
	●	浜松市医師会看護高等専修学校											●	
	●	静岡医療科学専門学校											●	
	●	浜松歯科衛生士専門学校											●	
個人立	●	浜松調理菓子専門学校							●					
		興津家政専修学校									●			
	●	辻村和服専門学校									●			
		由比ドレスメーカー専修学校									●			
	●	タカヤマアドバンスビューティ専門学校								●				
●	土屋学園家政専門学校									●				
合計			2	4	7	11	18	12	7	10	10	9	31	17

※専門課程とは、高等学校卒業生、3年制の高等専修学校卒業生等が入学する課程  
 なお、修業年限が2年以上等の要件を満たした専門課程の修了者は大学への編入学が可能

(参考) 高等学校専攻科と高等専門学校

	高等学校専攻科	高等専門学校
目的	精深な程度において、特別の事項を教授し、その研究を指導すること（主に看護、水産、農業、工業の専門教育分野の深化や社会人再教育）	深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成すること（主に工業、技術系の専門教育を施すことによる実践的技術者の養成）
設置手続	公立：県教育委員会の認可が必要 私立：知事の認可が必要	文部科学大臣の認可が必要
入学資格	高等学校卒業程度	中学校卒業程度
修業年限	1年以上	本科5年、専攻科2年
設置状況 (全国:H25)	134校 (公立69校、私立65校)	57校 (国立51校、公立3校、私立3校)
大学への編入学	可 (H28.4.1～)	可
学位等	なし (高校卒業)	準学士 (専攻科修了者は学士)
教員等		高校教員資格では、高専の教員になれず、教授等を確保する必要あり
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般の認知度が低いいため、応募者が少ない</li> <li>大学、短大、専門学校に比べて、就職に不安な面がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高校の高専化には、高校を廃止し、改めて高専設置の大臣認可が必要</li> <li>認可基準が極めて厳しい                             <ul style="list-style-type: none"> <li>①研究室を設けなければならない</li> <li>②高校と比べて多くの教員を確保しなければならない</li> </ul> </li> </ul>

(イメージ図)





# 学校教育法等の一部を改正する法律の概要

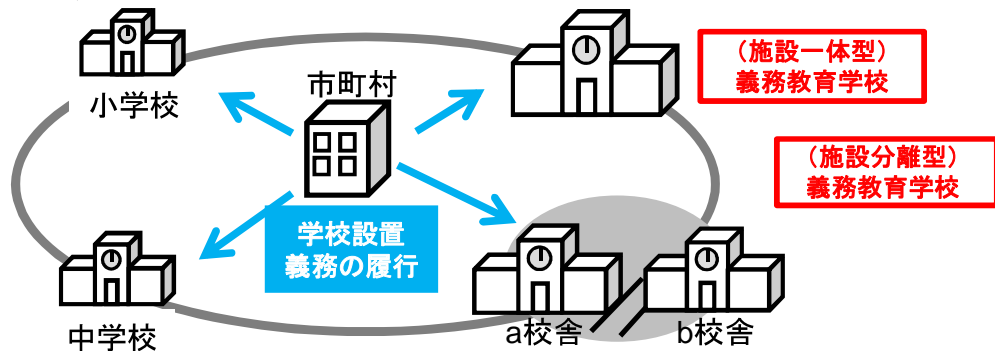
## 1. 法律の概要

### (1) 小中一貫教育を行う新たな学校の種類の制度化

趣旨・位置付け	<input type="checkbox"/> 学校教育制度の多様化及び弾力化を推進するため、現行の小・中学校に加え、小学校から中学校までの義務教育を一貫して行う「義務教育学校」を新たな学校の種類として規定(学校教育法第1条関係)
設置者・設置義務	<input type="checkbox"/> 国公私いずれも設置が可能(学校教育法第2条関係) <input type="checkbox"/> 市区町村には、公立小・中学校の設置義務があるが、義務教育学校の設置をもって設置義務の履行(学校教育法第38条関係)
目標・修業年限	<input type="checkbox"/> 義務教育学校の目的:心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育について、基礎的なものから一貫して施すこと(学校教育法第49条の2関係) <input type="checkbox"/> 9年(小学校・中学校の学習指導要領を準用するため、前期6年と後期3年の課程に区分)(学校教育法第49条の4及び第49条の5関係)
教職員関係	<input type="checkbox"/> 市区町村立の義務教育学校の教職員給与は、国庫負担の対象(義務教育費国庫負担法第2条関係) <input type="checkbox"/> 小学校と中学校の免許状の併有を原則(当分の間は例外あり)(教育職員免許法第3条及び附則第20項関係)
施設整備	<input type="checkbox"/> 施設費国庫負担・補助の対象(小・中学校と同様に、義務教育学校の新築又は増築に要する経費の1/2を負担等)(義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律第3条及び第12条関係)

※ 就学指定、教育課程の特例等については、政省令で規定する予定

#### (参考:義務教育学校のイメージ)



### (2) 高等学校等専攻科修了生の大学への編入学

- 学習者が、目的意識に応じて、自らの学びを柔軟に発展させることができるようにする等のため、修業年限2年以上その他の文部科学大臣が定める基準(※)を満たす高等学校等の専攻科を修了した者が大学に編入学できる制度を創設(学校教育法第58条の2関係)

※ 文部科学大臣が定める基準は、既に大学への編入学が認められている、専修学校専門課程と同等の基準(省令・告示で、修業年限、総授業時数、教員資格等を規定)とする予定

(参考:高等学校専攻科の概要)

- 入学資格 高等学校、中等教育学校、特別支援学校高等部の卒業生
- 設置校数: 138校 在籍生徒数: 8,333人(平成24年 文部科学省調べ)
- ※ 分野としては看護に関する学科(76校、6,726人)が多い。

## 2. 施行期日

平成28年4月1日(施行前でも義務教育学校設置のための準備行為は可能)

新しい実学の奨励に関するこれまでの取組

1 本県の取組

事業名	内容	
職業教育に関する知事褒賞の授与 (H24～実施中)	次代の本県一次産業やものづくり産業を担う若者の励みとするとともに、実学系教育機関が脚光を浴びるきっかけとするために、県内の職業教育を主とする高等学校、農林大学校等の生徒・学生等のうち、特に学業・技能・態度・行動が優秀で、他の模範となる業績を残した者に対して知事褒賞を授与する。	
実学推進フロンティア事業 (H26～実施中)	社会の変化に、柔軟に、かつ主体的に対応できる能力と、産業界で必要となる高度な知識・技能を身につけ、社会の第一線で活躍できる専門的職業人を育成する。	
「大地に学ぶ」農業体験推進事業	遊休農地を活用した農業体験活動、農業体験推進校への援助	
スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール事業	企業や大学と連携した先進的研究等の実施	
エネルギー関連教育充実事業	エネルギー・環境に係る諸問題に対応できる工業技術者を育成するために必要となる設備の整備等	
高校教育民間活力の導入	産業界から県立高校への特別教諭の招聘	
高校生アカデミックチャレンジ（高大連携推進）事業 (H26～実施中)	理数科や職業系専門学科等を設置する高校と大学との連携を一層強化し、高校生に高度な学問の一端に触れたり、研究体験や活動を行ったりする機会を提供することにより、全県から専門分野で卓越した資質を有する生徒を発掘し、その意欲・能力を伸張することで、高校在学時から専門性を有し国際科学オリンピックや学会発表等で活躍する人材育成を推進する。	
オリンピックチャレンジ (自然)	理数を学ぶ高校1、2年生を対象に、国際科学オリンピック等への参加を促し、4日間の講習会等を実施することにより参加者を支援する。	
イノベーションチャレンジ (産業)	専門学科、総合学科に学ぶ高校1、2年生を対象に、学会等の研究発表等を促し、4日間の学習会や現地調査を実施することにより参加者を支援する。	
チャレンジラボ	理数分野 (自然)	昨年度のオリンピックチャレンジの参加者から優先的に選抜し、4日間の大学での研究活動を大学院生等とともに行う。
	実学分野 (産業)	イノベーションチャレンジの参加者から2年生5人を選抜し、4日間の大学での研究活動を大学院生等とともに行う。
私立専修学校運営費助成 (S53～実施中)	私立専修学校の教育条件の整備と教育内容の充実を図るため、教育研究経費・管理経費に対し助成する。	
静岡県産業教育フェア (H5～H13)	専門高校の紹介と進学を促すために、専門高校が展示や展示販売などを行う。	

## 2 国の取組

事業名	内容
東日本大震災からの復興を担う専門人材育成支援事業 (H24～実施中)	被災地の産業・資源を活かした専門高校における人材育成プログラムの研究開発を実施。
専修学校（専門課程）の職業実践専門課程の認定 (H25～実施中)	専修学校（専門課程）における職業教育の水準の維持向上を図るため、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的として専攻分野における実務に関する知識、技術及び技能について組織的な教育を行うものを「職業実践専門課程」として認定し、奨励。
目指せスペシャリスト (スーパー専門高校) (H15～H23)	バイオテクノロジーなど先端的な技術・技能等を取り入れた教育や伝統的な産業に関する学習活動を重点的に行っている専門高校を指定し、カリキュラムや大学等との連携方策について研究開発を実施。
地域産業の担い手育成プロジェクト (H19～H22)	専門高校と地域産業界の連携方策等について地域ぐるみで検討する委員会を設けた上で、生徒の企業実習や企業技術者による学校での実践的指導、教員の高度技術習得、専門高校と企業の共同研究等を盛り込んだ、地域産業の担い手の育成プログラムを開発。
専門高校と小・中学校との連携推進事業 (H13・14)	ものづくりなどへの意欲、関心を高めることなどを目的として、専門高校の生徒の指導のもと、小・中学生がものづくりなどの体験学習を実施するなど、専門高校と小・中学校との連携によるものづくりなどに関する教育の推進について実践的な調査研究を実施。
みんなの専門高校プロジェクト (H15～H18)	
農業高校と農業大学校の連携推進事業 (H14・15)	農産物の生産に対する知識・技術や農業経営に必要な経営管理能力等を5年間一貫した教育により修得させるため、農業高校と農業大学校との継続的なカリキュラムのあり方等について検討。
ものづくり学習振興支援事業 (H12～H17)	小・中・高等学校等におけるものづくりに関する学習の振興を図るため、ものづくり教育関係者による支援体制の整備、「ものづくり学習指導者」のデータベースの構築、「ものづくり学習指導者」のための研修会の実施等を内容とするモデル事業を実施。
高等学校の専門教育に関する教育用コンテンツの開発 (H14・15)	民間企業のみでは開発が進まないと考えられる高等学校の専門教育に関する各教科（「農業」、「工業」、「商業」、「水産」、「家庭」、「看護」、「情報」、「福祉」）のコンテンツを開発。
専門高校等における「日本版デュアルシステム」推進事業 (H16～H19)	企業実習と教育を組み合わせた人材育成システムである「日本版デュアルシステム」（実務・教育連携型人材育成システム）について、その効果的な導入方法を探るためのモデル事業を実施。

## 地域学に関する取組

事業名	内容
<p>次代を担う人材育成事業                      (「地域学」推進事業)</p>	<p>地域を理解し、地域に貢献する人材を育成するため、伊豆ジオパーク、富士山、浜名湖等、学校周辺地域の特色を生かした学習活動を推進する。</p> <p>(1) 指定校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 伊豆半島ジオパーク (県立伊豆総合高校、県立松崎高校)</li> <li>イ 富士山 (県立裾野高校)</li> <li>ウ 学校周辺地域 (県立天竜高校春野校舎)</li> </ul> <p>(2) 指定校の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 授業、特別活動等                          地域の魅力の再確認と発掘</li> <li>イ 大学、研究施設との連携                          大学の教員や研究者による講義、実験及びフィールドワークによる学術的な学び</li> <li>ウ 部活動、生徒会等                          地域の魅力を広報する方法の検討、教材等の開発</li> </ul>
<p>共同公開講座開催事業                      (ふじのくに地域・大学コンソーシアムへの委託事業)</p>	<p>学術・研究成果の積極的な地域還元を図るとともに、異なる大学の研究者や学生とのコミュニケーション、大学と地域との共同の場の創生の機会を創出するため、静岡県の地域資源を活かし、静岡県の魅力発信に繋がる研究内容をテーマとした、大学間又は大学と地域との連携による講座を開催する。</p>
<p>高校等出張講座事業                      (ふじのくに地域・大学コンソーシアムへの補助事業)</p>	<p>大学等の教員が県内の中学校及び高等学校へ出張し、静岡県に関するテーマ等により講義を行う。</p>
<p>短期集中単位互換事業                      (ふじのくに地域・大学コンソーシアムへの補助事業)</p>	<p>本県の地域資源に関するテーマにより単位互換を前提とする宿泊型の短期集中共同授業を実施する。平成27年度は、平成26年度と同様に富士山に関するフィールドワークを含む集中講義を行う。また、次年度以降の事業拡大のため、単位互換協定校の募集や講座開設の準備を行う。</p>
<p>ふじのくに学共同研究事業                      (ふじのくに地域・大学コンソーシアムの自主事業)</p>	<p>静岡県の地域資源に光を当て、自然科学と人文社会科学の全てを包括し、世界との比較の中で静岡県の特長を明らかにする、学際的・国際的な新たな地域学(ふじのくに学)を創設するための取組を行う。また、その研究成果を活用し、大学カリキュラム化や一般県民への公開講座を通じた還元等を行う。</p>

<p>ふじのくに地球環境史ミュージアム整備事業 (H27.4 開設、 H28.3 一般公開予定)</p>	<p>○ミュージアムの基本理念 ふじのくにの地域学の創造と人・交流・連携が導く知の拠点づくり</p> <p>(1) “ふじのくに”固有の自然の探求と自然史資料の保管・継承、活用</p> <p>(2) 富国有徳の理想郷“ふじのくに”づくりの礎となる自然から環境分野に広がる領域の新たな地域学の創造</p> <p>(3) “ふじのくに”の未来を育む「有徳の人づくり」の推進</p>
<p>富士山世界遺産センター (仮称) 整備事業</p>	<p>○基本コンセプト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・センターは、4つの基本コンセプト（永く「守る」、楽しく「伝える」、広く「交わる」、深く「究める」）のもと、富士山関連施設等と連携・協働して事業活動を展開していく。</li> <li>・山梨県や関係市町等と連携し、環富士山で来訪者を受け入れる体制を構築する。</li> <li>・調査研究活動の推進については、ムセイオン静岡、大学コンソーシアム等と連携を図り、学際的、国際的、総合的な調査研究を進める。</li> </ul>



## 「実学」の基盤となる小中学校における地域学習について

### 1 地域学習に関連する取組の実施状況（政令市を除く）

内容	小学校	中学校
(1) 総合的な学習の時間において地域を題材等としている	94.0%	75.0%
(2) 自然体験学習	96.9%	88.4%
(3) 野外体験学習	92.8%	66.3%
(4) 社会貢献（奉仕）活動	90.4%	96.5%
(5) 社会体験活動（社会見学・職場体験等）	96.6%	100.0%
(6) 職場見学	63.2%	54.4%
(7) 職場体験	16.5%	98.8%
(8) 職業講話	52.0%	86.0%
(9) 職業講話における地域の職業人の活用	71.7%	73.6%

※(1)は、静東管内と静西管内の合計。なお、静東管内は26年度、静西管内は27年度データのため参考数値となる。

※(2)～(9)は平成26年度末有徳の人アクションプラン実施状況調査による。

- ・小中学校ともに、総合的な学習の時間、キャリア教育、特別活動等、何らかの形で地域と関わりを持った教育を行っている。小中学校における体験的な学習は地域の人的・物的環境によって成り立っている。
- ・例えば、小学校3年生の社会科は「地域」がテーマになっているので、地元の商店街等について学習する。小学校5年生の社会科では、地域にある工場見学等を行う。また、お米やお茶を題材にした小学校における総合的な学習の時間は地元の農家の協力なしでは実施できない。このように実学の基盤となるような小中学校における地域学習（地域に対する興味関心を高める取組、地域の人的・物的な財を扱った取組等）は根付いた実践として定着している。

#### 【参考資料】

- ・小学校 総合的な学習の時間 小学校3～6年 各70時間（週2時間）
- ・中学校 総合的な学習の時間 中学校1年 50時間（週1.4時間）  
中学校2・3年 各70時間（週2時間）

### 2 具体的な実践事例

#### (1) 地元地域をテーマにした総合的な学習の時間

掛川市立東中学校では、キャリア教育を組み込み、地元を学び、地元で働き、地域の将来について提案していくといった3年間を系統的に捉えた総合的な学習の時間「掛川学」に取り組んでいる。

1年「掛川を知る」 2年「掛川で働く」 3年「掛川を考える」

#### (2) 富士宮市立小中学校総合的な学習の時間「富士山学習」

富士宮市内の小中学校は、総合的な学習の時間を「富士山学習」と呼び、それぞれの地域の実態に則した地域題材を扱って総合的な学習の時間を進めている。

#### (3) 菊川市のキャリア教育

菊川市では、地元企業が中学校の体育館等でブース形式で説明を行うといったキャリア学習を行っており、地元で働くよさだけではなく、地元そのもののよさに気づき、ふるさと志向力を育むキャリア教育を実践している。

#### (4) 地域を扱った教材づくり

郷土の偉人を扱った冊子を作成している市町がある。掛川市では、郷土の偉人を扱った道徳の副読本「この人に学びたいー掛川の偉人ものがたりー」を作成しており、郷土の偉人を扱った資料で道徳の授業実践を行っている。

## 県内の大学、大学院等の状況

### ○県内の高等教育機関の設置状況と学生数

#### 1 高等教育機関の設置状況

##### (1) 学校数

本県内の高等教育機関の設置数は25校で、その内訳は、大学が15校（放送大学は除く）、大学院大学等が3校、短期大学が6校、高等専門学校が1校となっている。

このうち、県内に本部を置いている機関は、17校である。

設置者別では、私立が18校で最も多く、次いで国立4校、公立3校となっている。

区 分	国立	公立	私立	計	本部県内	本部県外
大 学	2	2	11	15	11	4
大学院大学等	1	0	2	3	1	2
短 期 大 学	0	1	5	6	4	2
高等専門学校	1	0	0	1	1	0
計	4	3	18	25	17	8

##### (2) 地区別キャンパス数

キャンパス数を地区別にみると、中部が13箇所と最も多く、次いで西部11箇所、東部6箇所となっている。（放送大学は除く）

区 分		東部(6)	中部(13)	西部(11)
大 学	国立		静岡大学（静岡キャンパス）	静岡大学（浜松キャンパス） 浜松医科大学
	公立		静岡県立大学	静岡文化芸術大学
	私立	順天堂大学（保健看護学部） 日本大学（国際関係学部） 常葉大学（富士キャンパス）	静岡英和学院大学 常葉大学（静岡キャンパス水落校舎） 常葉大学（静岡キャンパス瀬名校舎） 東海大学（海洋学部） 静岡福祉大学 静岡産業大学（情報学部）	常葉大学（浜松キャンパス） 静岡理工科大学 静岡産業大学（経営学部） 東京女子医科大学（看護学部） 浜松学院大学 聖隷クリストファー大学
大 学 院 大 学 等	国立	総合研究大学院大学		
	公立			
	私立		法政大学大学院静岡サテライトキャンパス	光産業創成大学院大学
短 大	国立			
	公立		静岡県立大学短期大学部	
	私立	日本大学短期大学部	静岡英和学院大学短期大学部 東海大学短期大学部 常葉大学短期大学部	浜松学院大学短期大学部
高 専	国立	沼津工業高等専門学校		
	公立			
	私立			

## 2 高等教育機関の学生数

### (1) 地区別学生数

学生数を地区別に見ると、中部(47.9%)が最も多く、次いで西部(35.8%)、東部(16.3%)の順となっている。

(単位：人)

区 分	計	東部	中部	西部
大 学	32,617	4,753	15,675	12,189
大 学 院	2,435	66	973	1,396
短 期 大 学	2,539	387	1,870	282
高 等 専 門 学 校	1,103	1,103	0	0
計	38,694	6,309	18,518	13,867
割 合	100.0%	16.3%	47.9%	35.8%

### (2) 男女別学生数

男女別の割合は、全体でやや男性(55.4%)が多くなっている。

種別ごとでは、短期大学で女性が9割以上であり、他の種別ではいずれも男性が多くなっている。

(単位：人)

区 分	人 数			割 合	
	計	男	女	男	女
大 学	32,617	18,518	14,099	56.8%	43.2%
大 学 院	2,435	1,795	640	73.7%	26.3%
短 期 大 学	2,539	197	2,342	7.8%	92.2%
高 等 専 門 学 校	1,103	927	176	84.0%	16.0%
計	38,694	21,437	17,257	55.4%	44.6%

### (3) 年度別推移

直近5年間の推移をみると、H24までは減少しているが、H25からは若干増加に転じている。

(単位：人)

区 分	H23	H24	H25	H26	H27
大 学	31,802	31,759	32,182	32,392	32,617
大 学 院	2,696	2,558	2,521	2,492	2,435
短 期 大 学	2,977	2,913	2,863	2,718	2,539
高 等 専 門 学 校	1,109	1,100	1,092	1,086	1,103
計	38,584	38,330	38,658	38,688	38,694
増 減	△140	△254	328	30	6



#### (4) 出身地別学生数（大学院を除く）

出身地別の学生数は、県内出身者が22,517人で全体の62.1%となっている。

学校種別ごとにみると、大学では、59.4%である一方、短期大学では8割以上が県内出身者となっている。

(単位：人)

区 分	計	県内出身	県外出身	留学生	その他
大学	32,617	19,369(59.4%)	12,615	461	172
短期大学	2,539	2,144(84.4%)	367	23	5
高等専門学校	1,103	1,004(91.0%)	93	6	0
計	36,259	22,517(62.1%)	13,075	490	177

※（ ）内は県内出身者の割合

※出身地は卒業した高校の所在地による

※その他は、外国の学校を卒業した者や高校卒業認定試験に合格した者

### 3 高等教育機関の入学者数

#### (1) 入学者数

H27の入学者数は10,511人でH26よりも19人の減となっている。直近5年間の推移では、全体の増減の傾向は一定していない。しかし、大学院、短期大学では減少の傾向が現れている。

(単位:人)

区 分	H23	H24	H25	H26	H27
大 学	7,808	7,687	8,144	8,107	8,131
大 学 院	1,108	1,005	998	967	957
短 期 大 学	1,440	1,357	1,393	1,221	1,184
高 等 専 門 学 校	235	234	231	235	239
計	10,591	10,283	10,766	10,530	10,511
大 学 + 短 大	9,248	9,044	9,537	9,328	9,315

#### (2) 入学定員

(単位:人)

区 分	H23	H24	H25	H26	H27
大 学	7,679	7,709	7,869	7,954	7,968
大 学 院	1,128	1,140	1,135	1,109	1,039
短 期 大 学	1,585	1,515	1,435	1,355	1,355
高 等 専 門 学 校	220	220	220	224	224
計	10,612	10,584	10,659	10,642	10,586
大 学 + 短 大	9,264	9,224	9,304	9,309	9,323

#### (3) 定員充足率

入学定員に対する入学者数の割合をみると、大学、高等専門学校は定員を満たしているが、大学院、短期大学では定員に満たない状況となっている。

区 分	H23	H24	H25	H26	H27
大 学	101.7%	99.7%	103.5%	101.9%	102.0%
大 学 院	98.2%	88.2%	87.9%	87.2%	91.1%
短 期 大 学	90.9%	89.6%	97.1%	90.1%	87.4%
高 等 専 門 学 校	106.8%	106.4%	105.0%	104.9%	106.7%
計	99.8%	97.2%	101.0%	98.9%	99.3%
大 学 + 短 大	99.8%	98.0%	102.5%	100.2%	99.9%

## ○卒業後の状況

### 1 卒業生数

平成27年3月に卒業した学生数は9,725人で、昨年度より56人増加した。

(単位：人)

区分	H22	H23	H24	H25	H26
大 学	7,220	7,057	7,090	7,231	7,297
大 学 院	1,026	1,087	992	924	938
短 期 大 学	1,293	1,350	1,356	1,289	1,277
高等専門学校	186	223	212	225	213
計	9,725	9,717	9,650	9,669	9,725
増 減	△196	△8	△67	19	56

### 2 進路別卒業生数

#### (1) 日本人学生

H26に卒業し就職した者のうち、県内に留まった者の割合は58.6%で、H25と比べて減少している。

(単位：人)

区分	H22	H23	H24	H25	H26
卒業生数計	9,370	9,343	9,273	9,270	9,394
就職者 A	6,601	6,791	6,758	7,045	7,333
うち県内就職者 B	3,968	4,061	4,018	4,314	4,294
県内残留率 B/A	60.1%	59.8%	59.5%	61.2%	58.6%
進学者 C	1,220	1,192	1,158	1,107	1,116
うち県内進学 D	891	845	863	833	844
県内残留率 D/C	73.0%	70.9%	74.5%	75.2%	75.6%
その他	1,549	1,360	1,357	1,118	945

#### (2) 外国人留学生

H26に卒業し就職した者のうち、県内に留まった者の割合は41.5%で、H25と比べて減少している。

(単位：人)

区分	H22	H23	H24	H25	H26
卒業生数	355	374	377	399	331
就職者 A	129	173	129	112	123
うち県内就職者 B	60	69	59	62	51
県内残留率 B/A	46.5%	39.9%	45.7%	55.4%	41.5%
進学者 C	71	66	56	58	34
うち県内進学 D	54	42	31	36	23
県内残留率 D/C	76.1%	63.6%	55.4%	62.1%	67.6%
その他	155	135	192	229	174

※その他は、就職や進学準備中の者、一時的な職についた者、所在地が不明な者など

## ○社会人の学習機会の提供

### 1 各種制度の状況（H26実績）

社会人向けの各種制度を設置している学校数は次のとおり。県内に本部を置いている大学及び短期大学全てが社会人特別選抜入試と科目等履修生の制度をおいている。

区 分	社会人特別選抜入試	研究生	社会人聴講生	科目等履修生	昼夜開講制
設置校数	15	17	15	21	3

### 2 公開講座・シンポジウム等の開催状況（H26実績）

各大学等が主催し、一般に向けて実施した公開講座等の開催状況は次のとおり。

区 分	講座数等	延べ参加者数
公開講座・専門講座	229 講座	14,244 人
シンポジウム・講演会	116 回	22,605 人
計	345 講座、回	36,849 人

## ○特色ある教育

### 地域に関する授業

静岡県に関するテーマで行われている授業の数は次のとおり。産業経済や地域社会、文化に関するテーマが多く扱われている。

区 分	産業経済	地域社会	文化	防災	歴史	総合	環境	富士山	自然科学
授業数	18	21	16	3	5	2	5	4	2

## ○海外との交流

### 交流協定締結状況

平成27年5月1日現在、県内13大学・短期大学が、40カ国・地域の大学等と240の協定を締結している。

国別では、中国が最も多く、次いでアメリカ、韓国の順となっている。

### 国別協定数

国・地域名	協定数	国・地域名	協定数	国・地域名	協定数
中国	51	韓国	25	台湾	7
モンゴル	1	ロシア	2	フィリピン	2
タイ	18	ベトナム	7	インドネシア	11
シンガポール	2	カンボジア	1	マレーシア	1
インド	4	バングラディッシュ	5	スリランカ	1
アメリカ	28	カナダ	4	メキシコ	2
コロンビア	1	オーストラリア	6	ニュージーランド	7
イギリス	4	ドイツ	12	スペイン	7
フランス	6	イタリア	3	リトアニア	1
ポーランド	4	ハンガリー	2	ルーマニア	1
モルドバ	2	スロバキア	1	ベラルーシ	1
ウクライナ	2	チェコ	1	ラトビア	1
ベルギー	1	トルコ	2	ブルガリア	2
南アフリカ	1			計	240

## ○留学生数

### 本県で学ぶ留学生数の状況

H27の留学生数は2,266人でH26よりも63人の増となっている。直近4年間の推移では、増減の傾向は一定していない。

(単位：人)

年度	H24	H25	H26	H27
高等教育機関	1,439	1,217	1,030	878
専修学校、日本語教育機関	812	970	1,173	1,388
計	2,251	2,187	2,203	2,266

## 県内の高等学校卒業後の状況

静岡県学校基本統計速報(平成27年5月1日現在速報)より抜粋

### (全日制課程・定時制課程)

#### (1) 卒業生数

- 平成27年3月の卒業生は32,404人(男16,575人、女15,829人)で、前年に比べ678人増加した。

#### (2) 大学等進学者及び大学等進学率

- 大学(短大等を含む)進学者は17,450人(男8,894人、女8,556人)で、前年に比べ612人増加した。
- 現役高校生の大学等進学率は53.9%で、前年に比べ0.8ポイント上昇した。男子の進学率は53.7%、女子の進学率は54.1%で、前年に比べ、男子は1.1ポイント上昇し、女子は0.5ポイント上昇した。

#### (3) 就職者及び卒業生に占める就職者の割合

- 就職者総数は7,140人(男4,161人、女2,979人)で、前年に比べ319人増加した。このうち、正規の職員等は7,079人(男4,135人、女2,944人)、正規の職員等でない者は55人(男22人、女33人)となっている。
- 進学・入学しながら就職した者は6人(男4人、女2人)となっている。
- 卒業生に占める就職者の割合は22.0%(男25.1%、女18.8%)で、前年に比べ0.5ポイント上昇した。また、就職者のうち県外に就職した割合は8.4%で、前年より1.8ポイント上昇した。

#### (4) その他の進学者・入学者

- 専修学校等進学者・入学者は6,275人で、前年に比べ193人減少し、公共職業能力開発施設等入学者は160人で、前年に比べ19人増加した。

図12 高等学校卒業生の進路別内訳

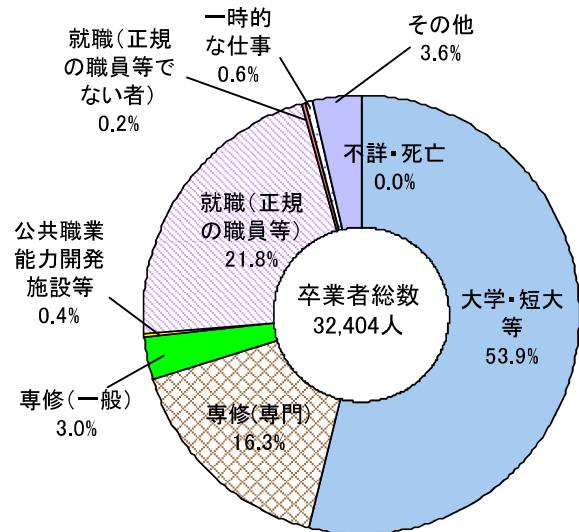


図13 高等学校卒業生数、大学等進学率及び卒業生に占める就職者の割合の推移

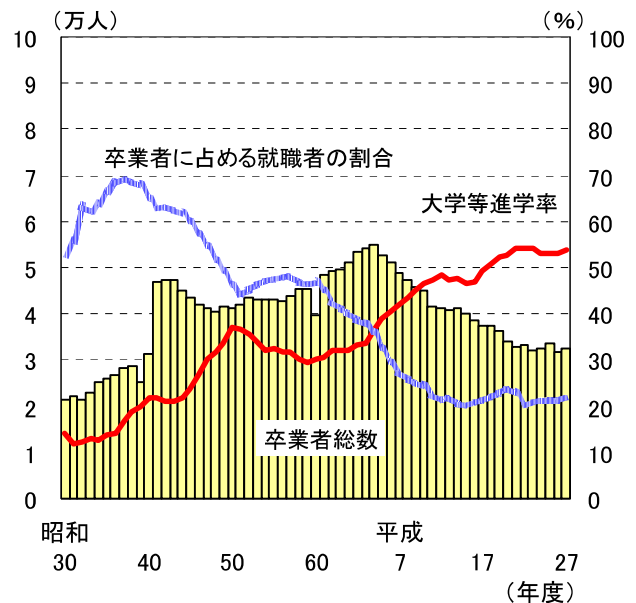


表16 進路別卒業生数(高等学校)

区分	卒業生総数	大学等進学者A	専修学校(専門課程)進学者B	専修学校(一般課程)等入学者C	公共職業能力開発施設等入学者D	就職者					左記以外の者	死亡不詳	(再掲)A B C Dのうち就職者	大学等進学率(%)	卒業生に占める就職者の割合(%)
						就職者計	正規の職員等	正規の職員等でない者	一時的な仕事に就いた者	不詳					
平成27年3月	計	32,404	17,450	5,296	979	160	7,134	7,079	55	202	1,181	2	6	53.9	22.0
	男	16,575	8,894	2,020	583	146	4,157	4,135	22	70	705	0	4	53.7	25.1
	女	15,829	8,556	3,276	396	14	2,977	2,944	33	132	476	2	2	54.1	18.8
平成26年3月	計	31,726	16,838	5,450	1,018	141	6,819	-	-	232	1,211	17	2	53.1	21.5
	男	16,034	8,427	2,168	632	119	3,966	-	-	64	650	8	1	52.6	24.7
	女	15,692	8,411	3,282	386	22	2,853	-	-	168	561	9	1	53.6	18.2
増減数	計	678	612	△154	△39	19	315	-	-	△30	△30	△15	4	0.8	0.5
増減率	計	2.1	3.6	△2.8	△3.8	13.5	4.6	-	-	△12.9	△2.5	-	200.0		

小・中・高校と大学・大学院の連携の推進に関するこれまでの取組

1 高校等における大学・大学院の教員等の活用に関する取組

事業名	内容	
高校等出張講座事業 (ふじのくに地域・大学コンソーシアムへの補助事業)	大学等の教員が県内の中学校及び高等学校へ出張し、静岡県に関するテーマ等により講義を行う。	
高校生アカデミックチャレンジ(高大連携推進)事業	理数科や職業系専門学科等を設置する高校と大学との連携を一層強化し、高校生に高度な学問の一端に触れたり、研究体験や活動を行ったりする機会を提供することにより、全県から専門分野で卓越した資質を有する生徒を発掘し、その意欲・能力を伸張することで、高校在学時から専門性を有し国際科学オリンピックや学会発表等で活躍する人材育成を推進する。	
オリンピックチャレンジ (自然)	理数を学ぶ高校1、2年生を対象に、国際科学オリンピック等への参加を促し、4日間の講習会等を実施することにより参加者を支援する。	
イノベーションチャレンジ (産業)	専門学科、総合学科に学ぶ高校1、2年生を対象に、学会等の研究発表等を促し、4日間の学習会や現地調査を実施することにより参加者を支援する。	
チャレンジラボ	理数分野 (自然)	昨年度のオリンピックチャレンジの参加者から優先的に選抜し、4日間の大学での研究活動を大学院生等とともに進行。
	実学分野 (産業)	イノベーションチャレンジの参加者から2年生5人を選抜し、4日間の大学での研究活動を大学院生等とともに進行。

2 高校と大学の教員等の対話に関する取組

事業名	内容
高大連携推進事業 (高大連携推進連絡会議)	県内の高校と大学の相互理解を深め、連携の推進を図るため、定期的に高校と大学等が情報交換、意見交換を行う。
高大連携推進事業 (高大連携シンポジウム)	大学、高校、保護者、企業等を対象に、本県の高大連携、高大接続、教育改革等に関する取組を広く紹介するとともに有識者による意見交換を行うシンポジウムを開催する。
静岡県教育委員会と大学等との連携推進連絡会	静岡県教育委員会と静岡県内の大学等との円滑な連携を推進するため、教員養成、教育実習、教員採用、教職員研修に関する事項等について、連絡調整を行う。

## 県内公立高校における高大連携の実施状況

### 1 実施状況

平成 26 年 4 月に「高校と大学の連携・接続のあり方検討委員会」の最終報告書が出されたことを機に、大学と連携した取組を実施している県内公立高校の数は増加している。

報告書が出される以前の平成 24 年度と報告書が出された以後の平成 26 年度を比較した結果は以下のとおりである。

H24	・公立高校 101 校（分校 2 校を含む）中、75 校（74.3%）が実施 ・参加生徒数は延べ 26,911 人（生徒数の 40.7%）
H26	・公立高校 95 校（分校 3 校を含む）中、78 校（82.1%）が実施 ・参加生徒数は延べ 35,781 人（生徒数の 50.8%）

○学校数で 3 校（7.8%）増加  
○生徒数で延べ 8,870 人（+10.1%）増加

### 2 取組の内訳等

平成 26 年度に実施された高大連携に関する取組は 850 件であり、平成 24 年度と比較して、286 件増加している。

H24	564 件【県内大学 324 件（57%）、県外大学 241 件（43%）】
H26	850 件【県内大学 434 件（51.1%）、県外大学 416 件（48.9%）】

<内訳>

※H24 と H26 は調査区分が変更されている。

	区分	件数	内訳	
			（上段：県内大学） （下段：県外大学）	
H24	出前講座等	496 件（88%）	283 件	（57%）
			213 件	（43%）
	大学紹介等	68 件（12%）	41 件	（60%）
			27 件	（40%）
その他	0 件（0%）	0 件	（0%）	
		0 件	（0%）	
計	564 件（100%）	324 件	（57%）	
		241 件	（43%）	

	区分	件数	内訳	
			（上段：県内大学） （下段：県外大学）	
H26	大学での授業体験	90 件（10.6%）	55 件	（61.1%）
			35 件	（38.9%）
	大学教員による 高等学校での授業	568 件（66.8%）	300 件	（52.8%）
			268 件	（47.2%）
その他 (大学見学や学校説明)	192 件（22.6%）	79 件	（41.1%）	
		113 件	（58.9%）	
計	850 件（100%）	434 件	（51.1%）	
		416 件	（48.9%）	